

聞く力から求められるもの

桜和高校 一年 大塚 真由実

理想の学校とはなんだろう。そう考えた時私は中学生の時に体験したある出来事を思い出した。

中学二年生の時、私は学級委員をしていた。ある時期、授業開始に鳴る予鈴より前に着席する、という規則が乱れていて、という問題が起き、各クラスの学級委員が声掛けを行うという話になった。ある日、クラスメイトが

予鈴が鳴り終わった後に廊下に立っているのを、別教室で作業をした帰りに出くわした私は、授業に遅れてしまったこともあり、「早く教室戻ろ」と声をかけた。その後一時間授業を挟み、休み時間に入った時、前の授業でサボートに入っていたA先生に声をかけられ、ついに行くと、先生の隣には拗ねた様子のクラスメイトがいた。どうしたものかとA先生の話の聞くと「廊下に立ってしまったのに理由はあつたりしくて、注意されたのが嫌

だ。たんだ。で。だから謝。てあげ。て。と言
 われた。その時は面倒事にしたくない。一で
 直ぐに謝。たが、自分の席へ戻。た後、私は
 何とも言えない気持ちになり、涙が溢れた。
 どうして先生は私の話を聞かずに、彼の主張
 だけで判断して、私に謝。りせたのだろう。と。
 私にも非がある。たかとも思い、正直なところ
 謝。たことについて、はなとも思わなかった
 のだが、ただ一方の主張だけを聞いて話を終
 わらせた先生に对して、私はやるせない気持
 ちにな。た。そんな私を見かねて、B先生が
 落ち着けるようにと話を聞いてくれた。私は
 事の発端と、先生の対応の仕方に不服だ。た
 ことを伝えた。すると、B先生はこう言。た。
 「あなたに自分が非がある。たかもしれないと
 思えるのはすごいことだし、何よりA先生が
 成長するため、あなたの話は伏せて、私か
 ら話をし。ておくね。A先生はB先生に比べて
 教師にな。るから日が浅か。た（後日談）の
 もあ。たりしいが、それでも私は話を聞いて

欲しかったな、と今思い出し、とも思う。
この出来事を通して、私が先生から学んだ
ことは、自分の視野の広さの大切さだ。
これかゝる生き、いく私にと、視野の
広さ、ほんとにも大事な能力だ。視野が広けれ
ば、心の余裕もできるし、何より、学校現場
や日常生活などの様々な場面を、活用
するこゝとができる。特に、学校という個性が
溢れ、価値観の相違が生まれやすい場所では
必要不可欠だ。

私が思う理想の学校とは、聞く力から見
える視野の広さがある学校だ。これから求
められるであろうこの力を、高校三年間で経
験するこゝとを通して養えていき、将来、私と
同じ場面に遭遇した人や何か困っている人な
ど、たくさんの人々に手を差し伸べられる、何
より私自身がこの能力を活用できる、そんな
人間になりたい。